

ドウツミミズハゼ

Luciogobius albus Regan, 1940

島根県：絶滅 (EX)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧 I A類 (CR)

写真 口絵8

【選定理由】

八束町大根島で最後に確認されたのは、1952年8月で、その後の確認例はない。50年以上確認されておらず、生息地の環境も悪化してきていることなどから、絶滅したものと考えられる。

【概要】

大根島の洞窟で1931年に採集された2標本に基づいて、1940年に日本固有の新種として記載された。生息地は大根島と長崎県五島列島富江町の溶岩洞穴、高知県の新莊川しか知られていない。国内で知られている唯一の洞窟性水生脊椎動物で、全長は5 cmほど。眼は退化しており、小さな黒点状をなし皮下に埋没している。体表には黒色素胞が乏しく、生時の体色は淡紅色を呈する。他の盲目性ハゼであるネムリミズハゼやイドミミズハゼに比べ頭が大きく、体長の1/4以上を占める。脊椎骨数は31で、ネムリミズハゼの36、イドミミズハゼの35～37より少ない。また、近縁のミミズハゼ類に比べ、本

種は背びれや尻びれが発達している。地下水中に生息するトビムシ類を餌とすると考えられている。現在、生息が確認されているのは福江町福江島の溶岩洞穴だけである。ここでも採集記録は少ない。本種は、もともと生息個体数がきわめて少なく、生物学知見に乏しい種である。

【県内での生息地域・生息環境】

大根島の溶岩洞窟内などに生息していたが、50年以上生息確認がなく、現在は絶滅したものと思われる。

【存続を脅かした原因】

もともと生息数がきわめて少なかったことや、洞窟内の土砂の堆積等による生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	粟黍	林地	草地	砂浜	河口	
○																	○					